

生成AI活用の取組み

生成AIを全社の「働き方の基盤」へ

日本光電は、医療機器の品質と安全性が患者さんの命に直結することを認識し、生成AIを「使わないことによるリスク」にも向き合い、責任あるガバナンスのもとで積極的に生成AIの活用を推進しています。中期経営計画「BEACON 2030 Phase II」では、コーポレートDXとDHS（デジタルヘルスソリューション）を推進しており、生成AIの活用は、これらの変革を進める上で重要な要素となっています。

2024年4月にわずか7名で創設した生成AI開発推進課では、2025年度に社内業務の高度化や効率化を目的とした独自の生成AIツール12件を開発・運用開始しました。具体的には、各国の許認可申請に必要な技術文書等の翻訳において、生成AI翻訳ツールの自社開発や業務フローの刷新により、年間の外注費を大幅に削減することが出来ました。また、医療機器メーカーとしての課題である、ISOやJIS等の国際規格への適合業務においても、従来は高度な専門知識を要する規格改訂時の差分分析について、生成AI翻訳と文書解析を組み合わせた独自の生成AIツールを活用することで、差分分析に必要なデータを作成する時間を、従来の1ヵ月から最短3分へと大幅に短縮することが出来ました。今後も、Time to Market（製品企画から上市までの期間）の短縮を進めます。

2025年度は、生成AIのライセンスを保有する社員の87%が日常業務で生成AIを活用し、年間利用回数は約4,400万回に達しました。高い利用率と利用規模の拡大は、全社的な知見の共有と仕組み化を通じて実現したものであり、生成AIの実装を全社規模で推進する先進的な事例となっています。

主な生成AIの活用事例：

- 社内向けチャットボット（KohdenGPT）
- 顧客対応における製品QAチャットボット
- 製品間接続互換性確認AI
- リスクマネジメントテーブル作成支援ツール
- 商談対応力トレーニングアプリ
- 営業日報分析ツール
- 生成AI開発支援ツール
- 生成AI活用状況ダッシュボード

2025年度の成果

指標	実績
生成AIライセンス保有者の活用率	87%（前年度は47%）
年間利用回数	延べ約4,400万回
削減時間	約199万時間（当初計画78.7万時間に対し253%）

事例	成果
各国許認可申請に関する技術文書翻訳の効率化・コスト削減	・作業時間：約7,300時間/月 → 約3,700時間/月に削減 ・海外市場への新製品上市までにかかる期間を短縮
ISO・JIS等の国際規格改訂時における差分分析の高度化・高速化	・差分分析に必要なデータ作成時間：約1ヵ月 → 約3分に短縮 ・Time to Market（製品企画から上市までの期間）の短縮

生成AI活用の取組み

責任ある生成AI活用と人財育成

日本光電グループ全体への生成AIの展開にあたり、2025年2月に「生成AI利活用ガイドライン」を策定しました。機密情報の取扱い基準の明確化、公認生成AIツールの体系化、ICT委員会と連携した管理体制構築の三本柱により、「使わせない」のではなく「安全に使いこなす」環境を整備しています。

人財育成においては、すべての役員・社員等を対象とした基礎研修から管理職向けの生成AI倫理・戦略研修まで、三段階の教育体系を構築しました。また、日々の業務に生成AIの活用を定着させるため、社員が自主的にノウハウを共有する「生成AI Cafe」を、2025年度は26回開催したほか、年間373件の個別支援を通じて、一人ひとりの業務に即した活用を継続的に支援しました。このような取組みにより、生成AIライセンス保有者における活用率は前年度の47%から87%に大幅に向上しています。

● 自社開発したアプリ



製品 QA チャットボット



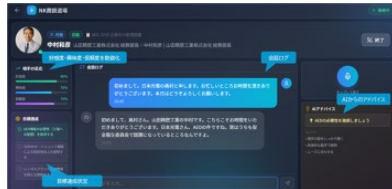
ショートカットキー駆動型生成AIツール「Rapi」



営業日報音声入力アプリ



製品間接続互換確認アプリ



商談対応カトレーニングアプリ



生成AI活用状況ダッシュボード

2026年度における取組み

2026年度は、生成AIの活用による業務効率化の成果を、経営価値の創出につなげます。

● コスト構造改革

外注費やソフトウェア関連費用の削減を推進

● 製品開発の加速

生成AI開発支援ツールの全社活用を通じて、Time to Market短縮を推進

● 医療生成AIへの挑戦

社内で培った知見とガバナンス体制を基盤に、医療現場の意思決定を支援する新たなソリューションを研究開発、海外子会社向けの技術支援ツールの展開

日本光電では、長期ビジョンで掲げる「グローバルな医療課題の解決で、人と医療のより良い未来を創造する」ために生成AIを戦略的な基盤と位置付けています。今後も、社員一人ひとりが生成AIを使いこなし、医療の未来に新たな価値を提供できるよう、取組みを継続します。

● 生成AI Cafeの様子

